平成 25 年度　インクルーシブ教育システム構築モデル事業　成果報告書
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

法人名	国立大学法人広島大学

概　要

モデルスクールの概要　（平成 26 年 3 月 1 日現在）

	モデルスクール名	幼児児童生徒数	教職員数
1	広島大学附属東雲小学校	492 名	27 名

【事業概要】

１．モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

本校には単式（32～40 人学級）・複式（2 つの学年を合わせた 16 人の学級）・特別支援の学級があり，日常的に各学年での学級交流や学校全体の縦割り活動によって共生意識の向上を図っている。

これまでは，特別支援学級の児童が通常の学級に入って一緒に教科等の学習をするような交流及び共同学習は行ってこなかったが，特別な支援を必要とする児童一人一人のニーズに応えるために，教科等による交流及び共同学習を通じた合理的配慮の事例蓄積や連続性のある多様な学びの場の確保についての検討が喫緊の課題となってきている。

平成 24 年度から,本校では特別支援学級と複式学級の教科による交流及び共同学習の導入に向け検討をしてきたところである。本校複式学級は低･中･高（各学級 16 名）と少人数であり，これまでは全学級同様，特別支援学級との日常的な学級交流，縦割り活動，あるいは行事等での交流も実践してきた。複式学級では，その学級構成・運営の性質上，自分たちで学習を進めていこうとする姿勢や，異学年との助け合いや関わりを大切にしながら生活していくといった，自治的包含的な学級集団が醸成されている。

単式・複式・特別支援学級を擁する，本校独自の学習環境を背景に，障害のある児童と障害のない児童が可能な限り共に学び，多様性を尊重する心を育み，また教員が児童一人一人に対してきめ細やかな指導や支援を実践することは，共生社会の形成に向けて非常に意義深いものであると考えており，本事業のモデルスクールとしてふさわしいものであると考えた。

２．取組の概要

学校全体でのきめ細やかな指導の実施を見据えた前段階として，複式学級という小集団との交流及び共同学習を行うことで，共に生き，共に育っていこうとする共生意識の向上という最終的な目的を達成できやすいものと考えた。本校に設置されている特別支援学級の児童と複式学級の児童との教科による交流及び共同学習を進めるに当たって，合理的配慮の具体的な方策とその効果について検討していった。

また，合理的配慮協力員が実際に授業に関わったり，授業研究をしたりして，特別支援学級内での対象児童の様子を観察し，考えられる適切な支援や手立てを教員と共に検討を行った。複式学級での交流及び共同学習における配慮などについて御指導いただきながら，実際の交流及び共同学習の授業研究も行っていただき，適切なタイミングでの支援ができているか，配慮の内容が適切であるかどうか等について，専門的な見地に基づく助言を受けることができた。

３．成果及び課題

平成 25 年度は,主に特別支援学級と複式学級の教科による交流及び共同学習の導入に向けた検討や試行を行った。また，先進的な取組を行っている特別支援学校や総合教育センターの視察や，特別支援学校より講師を招いての講演会などを通じて，障害のある児童や配慮を要する児童に対して効果的な支援を実践していくためのノウハウを学ぶことができ，通常の学級の担任にとっても，大変貴重な学びの機会となった。平成 26 年度においても，昨年度に引き続き，通常の学級担任による先進校視察及び研修報告に加え，特別支援学級における指導案づくりを全校で取り組みたいと考えている。

今後，共同学習を更に進めていくためには，通常の学級の教員が合理的配慮についての知見を深めることが必要であると考えている。特別支援学級に在籍する児童への合理的配慮の充実のみならず，通常の学級における合理的配慮の実施にも視野を広げて取り組んでいきたい。それによって，全ての教員が児童一人一人の教育的なニーズや課題などを適切に把握できるようになり,使用する教材の工夫やわかりやすい授業づくりなど,より効果的な指導や支援につなげていくことができるのではないかと期待している。

本校は，教科学習や教科の授業づくりについて取り組んでおり，それぞれの教科を専門とする教員が配置されている。こうした強みを最大限にいかし，特別支援学級における教科指導の充実や通常の学級におけるユニバーサルデザインの授業に向けた取組を推進していきたい。